

同和問題（道徳）学習指導業

平成3年6月25日（火）第5校時

板野中学校3年D組

男子19名 女子18名 計37名

指導者 後藤田 寿子

1 主題 人間としての生き方を求めて

2 主題設定の理由

義務教育最終学年としてスタートして約二ヶ月半、大きな期待と希望を持って集まつた37名の仲間たち。それぞれに進路選択への不安を感じながらも懸命に生きている。

ぜん息に苦しみながら精一杯生きている生徒、恵まれない家庭環境の中で頑張っている生徒、成績が伸びず進路について思い悩んでいる生徒など、さまざまな形の悩みや苦しみを背負って生きている。この生徒たちの悩みや苦しみを自分の心の苦しみとして共に感じ共に生きていく教師で有り続けたい。そして誰一人として悲しくつらい思いをすることのない学級を目指して共に支え合い励まし合いながら生徒達と共に歩んで行きたいとの思いを生徒に語りまた自分自身そのことを心に誓って新学年をスタートした。

クラスの生徒は全体的におとなしく素直である。生活や学習態度は消極的で活気には乏しい。自分の考えや思いは持っていても人前で発表するのが苦手な生徒が多い。そこで帰りの学活時に一分間スピーチを取り入れ自分の思いを仲間の前で堂々と語ることができるようにと練習を続けている。自分の思いを持っていてもその思いを仲間に語らなければ伝わらない。自分を厳しく見つめ直し、語ることによって自分を変え、仲間を変容させていくことができると確信する。まだまだ小さい声での発表ではあるがこうした取り組みの中で、生徒達はクラスの一員としての意識も芽生え、校内陸上大会では準優勝という思いがけない成果を勝ち取り、よりいっそう連帯感が強まってきている。しかしお互いを知るにつれ、相手のことを考えないで自分勝手な行動をとったり弱い立場の生徒に強くあたったり、欠席が長い間続いている友がいても、心を痛めることなく平然

と毎日を過ごす生徒がいるなど、仲間の心の痛みや苦しみを自分のこととしてとらえられない面が見受けられる。

しかし、昨年から同和問題学習を学年全体で取り組むようになり差別解消への熱い思いが少しづつではあるが、生まれつつあり大勢の仲間の前でも本音でぶつかりあう姿が見られるようになってきている。先日、他のクラスが公開授業をしたあとでクラスの生徒のあゆみには、次のようなことが書かれていた。

「私は差別から逃げようとしていた。私は決して、自分のふるさとをかくしたくありません。でも、もし言って差別を受けたらと思うと言いたくなくなります。そこが弱いんです。差別から逃げるために、ふるさとをかくすことは、本当は差別を受けること以上に、つらい、情けないことだと思います。」また自分達のクラスの公開授業のあとでの感想文には、「今日、みんなの意見を聞いていて自分がすごく恥ずかしくなった。今までの私の恥ずかしくなったというのは、部落にふれられてのことだったけど今は違う。

みんながあんなに一生懸命考え、発表しているのに、私は下を向いて、聞いているだけで、みんなの前で言うのがこわい。そんな自分が恥ずかしくなった。私は自分が部落だということをみんなの前で言うのがこわい。それはなによりも恐ろしい。みんなの視線を感じるからだ。」と書いてきたA子さん。彼女の胸のはりさけそうな痛み、心からの叫びに接し、私は胸がしめつけられる思いがした。自身、差別の重さをどれほど自分自身のものとして生きてきたであろうか。これほどまでに差別の重みを肌で感じ、苦しんでいる生徒が、自分の目の前にいるというのに・・・。彼女を苦しめてきたのは他ならぬ差別者の一人として生きてきた私自身だったのに・・・。本当に自分が情けなかった。すまないという気持ちでいっぱいである。いま、まさに人間としての自分の生き方が問われていると思った。差別の重みを背負いながらも、ひたむきに精一杯、生きようとしている彼女をそれほどまでに悲しませている差別に対し心から怒りが込みあげてくる。今、私は差別のつらさに必死でたえているA子さんの悲しみを自分のこととしてとらえ、真に支え合い共に差別と闘っていける学級集団に育てていく責任を痛切に感じている。

佐藤文彦先生の「美しさを求めて生きる人生を」を学んで生徒たちは、この世から差別がなくなったときに、より幸せになれるのは差別される人より差別する人の方だと

いう佐藤先生のすばらしい教えを学んだ。この教えを土台にして、「ふるさと」をかくさねばならない現実をなくすために私たちはどう生きるべきかを生徒と共に語りあいたい。

そこで、本資料を通して差別の厳しい実態を自ら世に訴えることによって部落の解放を願った丸岡さんの強い生き方とその思想に触れさせ、共感させると共に、この丸岡さんの生き方こそ、誇りうる生き方であり、すべての人間の幸せにつながることを認識させたい。そして真実を知り、自己を変革し、差別に立ち向かった丸岡さんの生き方を学ぶことにより、人間としての生き方を追求させたいと願い、本主題を設定した。

### 3 ねらい

差別の厳しさの中から立ち上がり、自らを解放しようとした丸岡さんの誇りうる生き方に共感させ、人間としての生き方を追求させる。

### 4 視点 人権と差別

### 5 指導計画

(1) 常時指導 「あゆみ」や「1分間スピーチ」で自分を語る。

(2) 関連的指導 道徳 「美しさを求めていきる人生を」 佐藤文彦

(3) 核心的指導 第一次 道徳 「同和教育への希い」 —— 5時間

第二次 道徳 「ふるさと」 ————— 1時間 (本時)

(4) 発展としての関連指導 特活 「すばらしい生き方を求めて」

(5) 常時指導 (発展) 何でも語り合い、支え合う仲間意識を高める。

## 6 本時の指導

### (1) 目標

「ふるさと」をかくさねば生きていけなかつた丸岡さん的心情と、差別に自ら立ち上がった生き方に共感させ、差別解消に立ち向かう自らの生き方を求めさせる。

### (2) 展開

学習活動	主な発問と期待される生徒の反応	指導上の留意点
1. 詩「ふるさと」を読み感想を発表する。	<p>○この詩を読んでどんなことを感じたか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「ふるさと」を名のるだけでなぜ、こんなに苦しまないかんのかと思った。</li><li>・差別に苦しんできたことをみんなにわかってほしいと訴えている。</li><li>・すごく苦しんできたことがわかる。</li><li>・胸はって「ふるさと」が名のれる社会にしたいと願っている。</li><li>・自分の子供には差別に立ち向かって強く生きていってほしいと願っている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・できるだけ多くの生徒に発表させる。</li><li>・丸岡さんがこの詩を通して訴えている思い、願いを考えさせる。</li></ul>
2. 詩にこめられている丸岡さんの思いや願いを話し合う。	<p>○「ふるさと」をかくすことを行ものような鋭さで覚えたということはどういうことなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・部落はかくさなければならぬこと、恥ずかしいことなんだということを肌で感じた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・誰もその理由を教えてくれなかつたことをおさえる。</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に教えられたのでもなく本能のようにしらずしらずに覚えていった。</li> <li>・子供心に悟っていた。</li> <li>・生きていく生活の知恵として覚えた..</li> </ul> <p>○なぜ「ふるさと」をかくさなければ生きていけなかったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しい部落差別があったから。</li> <li>・差別からのがれるために。</li> <li>・差別されるのがこわかったから。</li> </ul> <p>△「ふるさと」をかくして生きていたころの丸岡さんはどんなことに苦しみ、悩んだか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に「ふるさと」が言えない苦しみ。</li> <li>・平気をよそおってウソをついていた自分に苦しんだ。</li> <li>・いつばれるかという不安、恐れ。</li> <li>・立派に頑張っている兄や母の仕事さえもかくさなければならぬ矛盾に悩んだ。</li> <li>・部落と全く関係ない人間だというような振りを続けた苦しみ。</li> </ul> <p>△そういうように丸岡さんを苦しめているものは何か。また誰が苦しめているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・差別が苦しめている。</li> <li>・「部落」の正体がわからないことが丸岡さんを苦しめたことに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かくさなければ生きていけなかった差別の厳しさをとらえさせる。</li> </ul>
--	--	---

	<p>○かくすことから名のることへと丸岡さんを 変えたものは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・潤間先生との出会い。</li> <li>・信頼しあえる仲間の支え。</li> <li>・「部落」の正体がわかったから。真実を知 ったから。</li> <li>・「嘆くことより怒ることだ」と気づきその 怒りをバネにした。</li> <li>・強く生きていこうとする心。</li> </ul> <p>○かくすことから名のることへと自分を変え ていった丸岡さんの生き方をどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・差別から逃げるのではなく、自ら名のり差 別と戦って生きる誇りうる生き方。</li> <li>・部落差別解消に命をかけたすばらしい生 き方。</li> <li>・自分をかくさないで胸はって生きる強い生 き方。</li> <li>・差別への挑戦。</li> <li>・心から信じ合える仲間をつくりたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「かくすこと」から 「名のこと」へと 自らを変革した丸岡 さんの生き方に共感 させる。</li> <li>・「ふるさと」をかく していたのでは部落 解放はないという丸 岡さんの決意をとらえ させる。</li> <li>・丸岡さんの生きさま から自分の生き方を 深く考えさせる。</li> <li>・差別解消に向けて自 分はどう生きていく かを語らせる。</li> </ul>
3. 学んだこ とをもとにし て自分の生 方について考 える。	<p>○「これが私のふるさとです」と名のらせた いという丸岡さんの願いを受けて、自分は それにどう応えていくのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと勉強して部落の真実を知り差別に立 ち向かっていく人になりたい。</li> <li>・何でも信じ合い、話せる仲間をつくってい きたい。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人の痛みがわかる人間になりたい。</li> <li>・一人になってもいいからまちがっていない正しい道を歩んでいきたい。</li> <li>・もっともっと勉強し、つらい思いをしている友といっしょになって差別と闘い続けていく人になりたい。</li> <li>・差別に自ら立ち上がり差別解消に向けて懸命に生きた丸岡さんのようなすばらしい生き方をしたい。</li> <li>・だれもが胸をはって「ふるさと」を名のれる世の中にしていきたい。</li> </ul>	
--	---	--

